第九回

中学生訪中親善使節団報告書

南昌・上海・北京

平成11年8月20日(金)～8月25日(水)　6日間

八大山人記念館にて

Takamatsu International Association

財団法人 高松市国際交流協会

目　　次

Ⅰ　団　員　名　簿 …… 1

Ⅱ　日　　程 …… 2

Ⅲ　使節団の活動状況 …… 3

Ⅳ　感　　想　　文 …… 7

高松市中学生訪中親善使節団団員名簿

団　長	氏部　隆	財団法人高松市国際交流協会参事 高松市総務部次長
同行職員	松良教子	高松市保健センター　保健婦
同行職員	海見由紀子	財団法人高松市国際交流協会事務局員
団　員	藤本悠太	高松市立桜町中学校
〃	小野皓平	高松市立紫雲中学校
〃	村田順平	高松市立紫雲中学校
〃	藤本大佑	高松市立玉藻中学校
〃	林　舞紗	高松市立玉藻中学校
〃	畠山真代	高松市立屋島中学校
〃	土居美早紀	高松市立龍雲中学校
〃	中村衣里	高松市立下笠居中学校
〃	長野佑希	高松市立太田中学校
〃	井上智史	高松市立木太中学校
〃	立花良浩	高松市立木太中学校
〃	須田倫実	香川大学教育学部附属高松中学校

日　　程

1999年8月20日(金)～8月25日(水)　6日間

日次	月日(曜)	主　な　日　程　(時刻は現地時間)	宿　泊　先
1	8/20 (金)	CA922便で上海へ　17:45到着 東方明珠タワーを見学、夕食後外灘の夜景を見学	上海 上海日航龍柏飯店
2	8/21 (土)	午前　動物園，豫園を見学，買い物 午後　玉仏寺，博物館を見学 夜行列車に乗って，南昌市へ出発	列車泊
3	8/22 (日)	6:38　南昌市に到着 8:00　朝食 9:30　滕王閣見学 10:45　八一起義記念館見学 12:00　昼食 13:30　文物商店で買い物 15:30　八大山人記念館見学 17:30　南昌市人民政府を表敬訪問 18:00　南昌市人民政府歓迎宴会 ホームステイ	南昌 ホームステイ
4	8/23 (月)	8:30　友好会館集合 9:00　少年宮へ出発 9:30　少年宮で交流 12:00　昼食 13:30　新洪客隆で買い物 15:00　八一公園を見学 16:10　友好会館へ出発 16:40　友好会館で食事 17:20　空港へ出発 18:50　CA1512便で北京へ出発 21:00　北京到着	 北京 北京海逸酒店
5	8/24 (火)	午 前　万里の長城 午 後　故宮，天安門広場見学	北京 北京海逸酒店
6	8/25 (水)	8:00　CA921便で大阪へ出発 11:10　経由の上海を出発 14:05　関西空港へ到着 19:10　ANK723便で関空を出発 19:45　高松空港に到着	

＊ANK＝エアーニッポン　CA＝中国国際航空
＊ 中国での時間は北京時間で表示(日本より1時間遅い。)

使節団の活動状況

8／20（金）　●高松－上海

朝8時30分に旧グランドホテル前に集合。みんなスーツケースが重そうだ。１人でちゃんと運んで行けるのかどうか、少し心配だ。なんとか荷物をバスに積み込んで大勢の方に見送られていよいよ出発。

少年宮で披露する歌を３曲、研修で少し練習しただけなので、関空までのバスの中で練習することにした。「さくらさくら」ＯＫ、「もみじ」かろうじてＯＫ、「まつり花」・・・。なんとかなるだろう。松良さんが赤痢の説明をしているなか、バスは一路関西空港へ。

関空から上海行きの飛行機に乗る。ラッキーなことにビジネスクラスに乗ることができた。特別好奇心の旺盛な中学生たちばかりなので、おとなしく座っているわけがない。座席の周りに付いているボタンを全部試している。客室乗務員のコールボタンを押してしまった団員もいる。

そうこうしているうちにあっという間に上海虹橋空港に到着。南昌市外事弁公室の陳さんがにこやかに出迎えてくれた。小雨が降る中、あわただしくバスに乗り込み、東洋一高いといわれる東方明珠塔へ。きれいな女性のエレベーター案内員のパーフェクトな日本語の説明をちょうど聞き終えたところで展望フロアーへ到着。360度のパノラマから中国最大の経済都市といわれる上海の夜景を堪能した。

8／21（土）

パンダは早朝に動いている可能性が高いということで、朝食前に動物園へパンダを見に行く。パンダは気持ちよさそうに寝ていた。がっくりである。カメラを片手に蚊と格闘しながらパンダが起きるのをじっと待つ。

ホテルに戻って朝食を食べたあと、再びバスに乗って豫園へ。元々は旧中国人街に位置する中国式庭園であり、明の時代にある役人が故郷を懐かしむ父親のために造営した庭園だという。上海のなかでも、特別伝統的な場所だけあって、園内は団体の観光客でごったがえしていた。はぐれないように、みんなくっついて歩く。

昼食後お土産やさんで買物をすることに。ここで初めて中国の洗礼を受けた。店員の日本語での執ような売り込みに、みんなとまどったり、へきえきしたり。店員の「安い」「ここだけ」「特別」は信じてはいけない。

大変だった買い物も何とかクリアーして、上海博物館へ。途中進入禁止の道路に入ってしまったらしく、罰金をとられてしまう。上海は交通規則が厳しいらしい。

上海博物館は4階だてで、96年に改装オープンしたためか、広くて整然としている。日本人向けに日本語の説明テープを用意してくれていたので、それを片手に進む。ただあまりにも広く、たくさんあるので自由行動にした。各自好きなジャンルの展示室へ向かう。

そのあとの玉仏寺では、バスからおりて彼らが見たものは、ホーローのコップをかたかたとならしながら物乞いをしている老人たちだった。帰るときも、バスに乗り込んだあとも、窓の所まで来てかたかたと鳴らす。初めてこんな光景をみた団員たちはみんな怖かったようだ。

今年は去年より涼しいといっても、まだ真夏でしかも一日のうちで最も暑い時間に外出しているので、みんな少々お疲れの様子。疲れと脂っこさのせいか、食欲がない子もちらほら。

夕食後南昌行きの夜行列車に乗り込む。列車の中では夜遅くまで大トランプ大会。次の日からのハードスケジュールが少し心配。

8／22（日）

南昌市人民政府表敬訪問

朝６時３８分、列車は南昌駅へ到着する。張知明さんをはじめとする外事弁公室の人や教育委員会の人がホームまで出迎えてくださった。友好会館で朝食を済ませてから、八一起義記念館へ。中国共産党が正規の軍隊（今の人民解放軍）を持つようになった所で、史料がたくさん陳列されており、当時の雰囲気がそのまま残っていた。滕王閣では、最上階で古典芸能の公演を鑑賞して、昼食をとる。今までかなり脂っこい食事が続いていて、少し胃にもたれているということで、外事弁公室の人がホテルのバイキングを用意してくださっていた。みんな「助かったー」というのが正直な感想といったところ。

昼食後、文物商店で買い物をする。彼らは買い物をしているときが一番生き生きとするらしい。紙とペンと計算機を駆使して値段交渉を始める。本当にみんな中学生だろうかと思うくらい上手に交渉している。各自思い思いのものを買って、八大山人記念館へ。ここでは明代末から清代初めにかけて活躍した書画の巨匠である八大山人による書画が多く展示されていた。ここの売店でも、みんな本領を発揮して値段交渉をしていた。

いよいよ友好会館で南昌市人民政府を表敬訪問することになった。鐘楽初副市長さんをはじめ、教育委員会や外事弁公室の人たちがあたたかく笑顔で出迎えてくださった。最初は緊張していた団員たちも、副市長さんの笑顔で少しリラックスできたようで、中国語ではっきりと自己紹介ができた。

夜、ホストファミリーが友好会館まで迎えに来てくれる。実験学校の生徒たちと、まずは自己紹介をしあい、なんとか英語で意志疎通させているようだ。ホストファミリーへのおみやげを持って、それぞれホームステイ先へ向かった。南昌日報（現地の新聞社）の取材を受けたところもあった。

ホストファミリーと

8／23（月）

少年宮での交流

朝、ホストファミリーに友好会館まで送ってきてもらう。みんなそれぞれ温かく受け入れてもらったようで、持っていったお土産よりもたくさんのお土産をもらって帰ってきた。「昨日はデパートに連れていってもらった。」とか、「日本語を少し教えてあげた。」など、体験したことを少年宮へ向かうバスの中で報告しあう。彼らの話から、あらためて受け入れてくださったホストファミリーや外事弁公室の人たちの熱意や気遣いに頭が下がる思いである。

少年宮へ向かう途中で人だかりを見つけた。小さな子供たちが手に花を持って並んでいた。何だろうと思っていると、バスが止まった。ここが少年宮の子供たちとの交歓会の会場だという。その熱烈歓迎ぶりにびっくり。拍手の中を会場へ進むが、みんな緊張して歩き方が少し不自然になっている。少年宮の子どもたちの明るい一生懸命な演技に少々ひるむが、長縄跳びやいろんな出し物でなごやかな雰囲気で交流ができた。

少年宮をあとにして、海鮮料理の店で昼食をとってデパートへ買い物に行く。ところがお目当てのチャイナ服がなかったようで、別のデパートへ行ってもらうことに。北京行きの飛行機の時間がせまっているというのに、陳さんにはかなり迷惑をかけてしまった。団員はお目当ての品物を買えたらしく、ほくほく顔で戻ってきた。

大急ぎで友好会館へ戻る。馮章豪秘書長さんが歓送宴会を設けてくださり、南昌の印象や思い出などを話した。空港へ行く時間となり、張さんや曽さんたちとはここでお別れ。ホストファミリーも見送りに来てくれた。たった1晩だったけれど、やっぱり別れるのはつらいようで、出発時間ぎりぎりまで話し込む団員も。いよいよ北京へ。

8／24（火）

清朝時代の建造物、故宮を見学

朝8時に万里の長城へ向かう。高速道路を降りてしばらく行くと、連なった山々が見えてきて、それに沿うように長城がどこまでも続いていた。目の前には急な階段が延々と続いている。ミネラルウォーターのペットボトルとタオルを片手に、いざ出発。夏休み中ということもあって、観光客でごった返していた。一番高いところまでいった元気な人もいれば、途中であきらめた人も。しかし、長城からながめる景色は絶景で、中国の悠久の歴史を実感できた。

昼食後、故宮と天安門広場を見学する。紅い壁と黄色の屋根がどこまでも続く故宮は、映画「ラストエンペラー」でもおなじみになったが、即位式に使った広場や、溥儀が自転車の練習に使った通路はどこだろうと探すが、建国50周年の式典にむけて、故宮内の至る所が修理されていたた

め、太和殿など外朝と内廷くらいしか見学できなかった。しかしそれでも時間が足りなかったくらいである。

故宮を抜けて、天安門広場へ。天安門に掛っているスローガンの間にある毛沢東の肖像画の大きいのにはびっくりする。天安門広場はお正月でもないのに、凧上げを楽しむ人で一杯だ。いつもこのようににぎわっているらしい。とにかくこの広さには圧倒される。歩いても歩いても広場の端にたどり着かない。かなり歩いてやっとのことでバスに乗りこむ。今日は一日よく歩いたのでみんなお腹ぺこぺこだ。

「全聚徳」という北京ダックの老舗として有名なお店で、前々から楽しみにしていた北京ダックを食べる。ダックを目の前で取り分けてくれるその手さばきに、みんな興味津々。すごい食欲で、あっという間に食べ尽してしまった。駐車場には高級な黒塗りの大きな車ばかり止まっているところをみると、ここはそういう人がくるところなんだなということがよく分かる。

中国最後の夜ということで、スーツケースの片付けをするようにということだったのだが、チャイナ服を着ての即席ファッションショーが廊下で始まってしまった。最後まで大騒ぎな団体である。

8／25（水）

いよいよ中国ともお別れである。陳さんと北京首都空港で別れ、関空行きの飛行機に乗り込む。高松空港に団員一同元気に到着。到着ロビーでは、学校の先生や家族の人たちが忙しい中を出迎えてくれた。たった６日間の短い期間だったが、一人ひとりが親善使節団の団員としてしっかりと友好親善に努め、中国ではいろいろな人に出会え、多くのことを経験してきたと思う。それぞれの将来や高松の今後の国際交流にも大きく役立つことを願っている。お疲れさまでした。

はてしなく続く万里の長城

感　想　文

元気でたくましい高松の中学生

高松市総務部次長
㈶高松市国際交流協会参事
氏　部　　隆

8月20日午前8時半、大勢の父兄の皆さん、関係の方々に見送られてバスで関西空港に向け出発しました。平日の、しかも早朝にもかかわらず、その人数の多さなどから、最愛の子供を手放す親の不安が伝わってきて、私たちスタッフ一同、背中に「責任」という重い荷物を背負っての出発となりました。また、出発直前にホームステイの変更があるなどうわさに違わず、日程的にも不安な旅立ちでしたが、子供たちの元気さとたくましさが私たちの心配を一掃してくれました。

午後3時35分関西空港を出発、上海空港に到着したのは中国時間で17時45分、今にも雨が降り出しそうな空模様でした。上海では東方明珠テレビ塔、上海博物館、豫園等を見学しましたが、まさに発展する都市の活力を感じました。人の多さもさることながら、すでに完成した高層ビル群、それもここ10年くらいの動きが中心というから驚きです。上海市の10年後の姿への期待とそのパワーに対する脅威を感じました。

21日の夕方、夜行列車で南昌市への移動。夜明けとともに、窓から見える南昌市は緑も多く、郊外には農村風景も残った美しい街でした。この秋に中国での美観都市の指定を受けるべく努力しているという説明を聞き納得です。友好都市・南昌市では実に温かい心のこもった歓迎を受けました。まず、食事の面では、それまで2日間の上海での中華料理で少しへばり気味だった子供たち（実は一番私が参っていました）のために、日本人向きの食べやすい食事を用意してくれました。スタッフの方々が次の食事場所に先乗りして、厨房にいろいろと注文を出してくれたようです。お陰で子供たちのパワーも回復、感謝の気持ちで一杯です。

南昌市副市長の歓迎パーティ、ホームステイ、少年宮での交歓行事など、元気を回復した子供たちは、今回の中国訪問のメインである公式行事を次々とこなしてくれました。特に少年宮では熱烈歓迎。来年の夏、高松の市民会館で公演を予定しているとのこと。どんな歓迎ができるか心配です。

夜、子供たちは期待と不安が入り交じるホームステイです。私たちスタッフも子供たちがお世話になっている家庭を2軒ほど訪問しましたが、どの家庭も子供たちが困らないように、淋しがらないように細心の注意を払ってくれていることがよくわかりました。再び感謝。お陰で翌朝ホストファミリーに送られて友好会館へ帰ってくる子どもたちは、すっかり打ち解けた様子でみんなニコニコ顔でした。（土産を一杯もらったせいかも？）この日は市内観光の後、南昌市外事弁公室主催の送別パーティに出席、夕方南昌空港から最後の訪問地、北京へ向けて出発しました。

この南昌市での最終日から北京にかけて、今回の行程での唯一の体調不良者がでました。出発前、団員の半数以上が下痢になると聞かされていたのとは反対に、便秘によるものでした。保健婦の松良さんも下痢止めはずいぶん用意していたようですが、下剤はさすがに用意していなかったようです。北京に着いた夜は、少し苦しそうでしたが、翌朝には元気になり、全員揃って万里の長城、故宮博物館、天安門広場を見学。夜は本場の北京ダックに舌鼓を打ちながら、中国最後の夜を団員一同、大いに盛り上がりました。

最終日の26日は早朝北京空港を発ち、上海経由で関西空港へ。無事帰国です。今回の行程を通じて、子供たちの元気さとたくましさには本当に感心しました。病気らしい病気になる子もおらず、よく食べ、よく遊び、思い切り楽しんでくれたようです。特に買い物は熱心で、行く先々で買い物の時間を要求、店の人を相手に、日本語、中国語、英語を交えて交渉（値切り）する姿は、周りで見ている私たちが、はらはらするくらい生き生きとしてたくましく感じられました。

今回の中国訪問が教育的見地からどれほどの成果があったかは、教員でない私にはわかりませんが、少なくとも彼らの外国に対する関心、国際交流への窓が少なからず開けたことは間違いないと思います。上海から北京まで同行いただいた陳さんをはじめ、外事弁公室の張さん、曽さん、その他たくさんの方々に大変なお世話になりました。厚くお礼を申しあげます。

最後にたくましくて元気な子供たちに感謝しながら、この感想文の結びとします。

夢のような6日間

高松市保健センター保健婦
松　良　教　子

中国！一度は行ってみたいと思っていましたので、「第９回中学生訪中親善使節団の救護で…」と話を聞いたときは、うれしく思いました。第８回までは３月の訪中でしたが、今回は８月20日から25日までの６日間でした。出発が近づくにつれ、次第に団員の健康管理はどうしよう、とか、水事情は悪く、水は売っているが使用済みのペットボトルを何回も使っている、等の衛生状態の悪い情報を聞くにつれ、赤痢などの伝染病にかかったらどうしよう、という不安でいっぱいでした。

何はともあれ、飛行機は大阪湾を後に上海へ向け飛び立ちました。

上海空港で南昌市の陳さんとガイドの朱さんが笑顔で出迎えてくださり、不安が消えました。上海の整備された高速道路の両側は新しい高層ビルの建設ラッシュで活気に満ちていました。

上海から夜行列車で南昌市へ行きましたが、車掌が女性だったのには驚きました。女性が大型機械を運転していると聞いてはいましたが、深夜業務にも従事しており、女性の社会進出はかなり進んでいることが分かりました。

八一公園の辺りを通っていると、ふと、高松市の旧駅前広場から中央通り辺りを思い出し、友好都市南昌市の雰囲気は高松市のとよく似ていると感じました。

南昌市の滕王閣の屋上から見る360°の眺めは最高の眺めで赣江の対岸には高層ビルが建設され、南には行政区、また滕王閣を中心に観光開発区の様子がよく分かり、ゆったりと流れる赣江の向うに地平線が霞んで見え、夢を見ているような気持ちでした。

中国では、人口抑制のため、一人っ子政策をとり、子どもの教育には特に力を入れていると聞いていました。少年宮やホームステイ先の子どもたちを見ていると、踊りや習字などに、皆それぞれに一芸に秀でて一生懸命に努力をしているのが分かりました。

北京では、故宮を見るのを楽しみにしていましたので、とても感動しました。映画「ラストエンペラー」の中で、幼少の溥儀が太和殿で即位式を終え、入り口に立ち、周囲を見渡すシーンがありましたが、その場所に私も立って四方を見渡し、今まで旅してきた開発最盛期の上海、中華人民共和国の人民解放軍創設の地南昌市、5,000年の歴史の北京、これら、悠久の歴史を持つ中国と新しい中国に感動しました。天安門、万里の長城などのスケールの大きな文化遺産と大地が広いせいでしょうか、中国はおおらかで、そして、交通事情や高層ビルの建設ラッシュに代表されるようなエネルギッシュな国、そんな中国が好きになりました。語学力をもっとつけて再度中国を旅したいと思います。

今回の訪中で全員元気で帰国できたのは、陳さん・張知明さんはじめ南昌市の皆さんのご配慮のお陰であると感謝申しあげます。そして、事前研修などでお心遣いをいただきました高松市国際交流協会・高松市国際交流室の皆様、誠にありがとうございました。

H 11.8.24
万里の長城　ピンクレディとともに

中国へ行って発見したこと

(財)高松市国際交流協会
事務局員
海　見　由紀子

中国へは何回か個人で行っており、夏の中国は大変暑く、日中は外に出歩くということが少々しんどいということが身にしみて解っていた私は、今回の訪中で暑さにやられてしまう人がでないかどうか心配でした。ところが、今回は我々の日ごろの行いが大変良いためか、今年はめずらしく涼しくて比較的過ごしやすかったようです。

今回の中国訪問で一番印象に残っているのが、やはり南昌の少年宮の子どもたちや実験学校の子どもたちとの交流です。はじめは照れがあるのか、それとも言葉が通じないからなのか、少しぎこちなさが見えていましたが、そのうち、日本語、英語、中国語、身振り手振り、筆談など、とにかく使えるものすべてを動員させて、何とか意思の疎通をはかり、あっという間に仲良くなっていきました。少年宮でも、一緒に長縄跳びをしたり卓球をしたりして、言葉を使わないでもなごやかに交流できたように思います。大人ではどうしても構えてしまって、すんなりとはできない異文化交流を、子供たちはいとも簡単にやってのけてしまいました。

もう一つ、印象に残ったことがありました。中国にいる間には買い物をする機会がたくさんあったのですが、団員全員がどこの店にいっても、どんな品物でも、最初に必ず値段交渉していました。大人は日本と比べて物価が安いという理由もあるでしょうが、少々の金額で値段交渉をするのは面倒だし時間がもったいないので、店員の言い値で妥協する人が多いのですが、彼らは違いました。店員さんと時間をかけて、納得がいく金額になるまで真剣でした。その結果、勝つか負けるか、それはいろいろでしたが。

今回６日間だけでしたが、中学生と一緒に過ごす機会を持つことができました。自分にとって中学生という年代の子どもたちとはほとんどつながりがなかったので、正直なところ、彼らが何を考え、どういう行動をするのか全く想像がつかなかったので、少々不安でしたが、この６日間を通して、中学生たちの持っているたくましさや、異質な物を受け入れやすいという柔軟な精神を少しだけ垣間見たような気がします。

今回の訪中が彼らにとって大きな財産となって、今後の学生生活の糧になることを願っています。

最後になりましたが，南昌市や北京、上海でお世話になった皆様や訪中団に関わっている皆様に感謝します。

精鋭引率部隊（故宮にて）

ほんまにでっかい国に行った事

高松市立桜町中学校
藤　本　悠　太

あれはでかかったね、万里の長城。むしろ長かったね。みんなの中で一番上に登った。　僕、大佑、団長、長野さん、土居さんでも、四つ目のくぎりの所までしか行けんかった。階段の一つ一つがでかい。一段が、高さ30cmくらい、大きいので、45cmくらいの段があったのさ。えらかった。でもそこから見る景色は最高だった。

故宮、あれもね、でかかった。いくつもの宮殿があり、そのどれにも龍の絵が、彫られていたのさ。宮殿の手すりなどに使われている金色は、その時代、王様のシンボルで、普通に暮らしている人々は、緑色がシンボルだと、ガイドの朱さんが言っとった。

ホームステイ先の章さんの所はでかかった。ほんまにでかくて広かった。章さんの所には立花君と二人で行った。最初は、全然会話が無かったけど、おみやげを渡したら、とてもよろこんでくれた。そこから、いっぱい話せた。でも、予定が変って、ホームステイが一日しかできなかったのが残念だった。会話は、できるかぎり中国語で話そうと思ったけど、言ってみたら、首をかしげるばかり、でも、英語は、テストの点からは考えられないくらい、僕としては100点満点でした。

あーそうか、あそこはべつにでかくなかった。上海の免税店。みんなあの店でいろんなもん買っとったけど、みんな後から怒っとった。とくに団長は、100元（約1,350円）のしおりを10枚も買った。でも豫園で、30元（約405円）で売っとった。

そう！思い出した。天安門広場。あそこは広すぎだろ。うん。広かった。たこがいっぱいあった。これでよし！

ホテルもでかかった。四つ星ホテル。すんごいでかくて豪華。ゴーカ、だった。今まで泊まったホテルの中で一番ゴーカ。いや、よかった。うん今回中国に行ってよかった。うん。

テレビ塔、あれは高かった。約500mの高さを誇る、中国最高の塔である。そこで、上海の夜景を見た。とにかく高くて下にある川が、小さくは見えなかった。川もでかいのだ。

食事は別にでかくなかった。でもうまかった。ばりうま。でも、肉まんとかは、あんまりでなかった。でも最後の夜にペキンダックが出たけんまあよしとしよう。うん。からかった。ホームステイ先では、甘かった。牛乳がバリバリ甘かった。見たら砂糖が入っとった。甘かった。

陳さん、いい人だった（写真）。上海、北京、と僕らの世話をしてくれた。

今回中国に行って思った事、二つ。

ニオイが、全然日本とちがう。上海なんかは、油っぽいニオイがした。

広い、大きい、すべてにおいて大きい。今度は、万里の長城のはしからはしまで歩いてみたい。うん、みたいね。あくまで。

故宮にて

新たな発見中国

高松市立紫雲中学校
小　野　皓　平

「中華人民共和国は、どんな国？。」

訪中親善使節団として中国へ行くまでは大きな国、歴史のある国、人のたくさんいる国そして近くて遠い国という印象しかありませんでした。

今回中国へ行って、新たな発見、感動を見つけて中国から帰ることができました。

８月20日上海空港に到着。「あれ上海空港は国際空港じゃないのかなあ、高松空港よりよごれているなあ。」これがぼくの中国で最初に感じたことでした。

そして市内観光ですごい人、すごい車、そして感じたことは町全体に活気があるということです。そして中国のすごさはこれだけではなかったのです。観光として行った豫園では今まで見たことのない形の石、声がよく聞こえるようにできているうずのような天井など日本の建物にはないような工夫がされていました。また、玉で作られた仏像が他国から送られた物だと知り中国の文化の深さを少し知ることができました。

またこの旅行で一番心に残ったのはホームステイです。ぼくは三人家族の朱佑伦君の家に泊まりました。中に入るとスリッパではなくサンダルが置かれており「何に使うのだろう。」と一瞬とまどいました。そして、さらにびっくりしたのはサンダルをはいたままシャワーをあびるからです。顔もよく似て、しかも一番近い国なのに生活様式がこんなに違うなんて予想できませんでした。最初「朱佑伦君と仲良くなれるかな。」と思っていましたが、トランプをしたり、オセロや五目並べなどゲームを通じて交流を深めました。夜になると彼のお母さんが夜食（あんこの入っただんご）を出してくれました。そして一晩があっという間に終わってしまい、短い時間の中で言葉が分からなくても遊びや食事をいっしょにすることにより気持ちが通じあえるものがあったと思います。

四日目、最後の目的地北京に到着、北京での二日間で故宮、万里の長城を見学しました。

故宮は、二時間程度の見学でほとんど見られませんでしたが、人の話では一人の職人が一生かかって作った作品とか世界的にも重要な作品があるということで感激しました。万里の長城の長さはとても人だけで作ったとは思えませんでした。

ホストファミリーと

旅行を通して中国はすばらしい国だと思いました。遺跡を大切にまもり、そして、産業を発展させていて、国全体が未来へ向けて押し進んでいるように感じました。それと家庭を大切にしていることも分かりました。しかし今回ぼくが見たのは一部分だけかもしれないので、もっと中国の事を勉強して、もう一度中国へ行きたいと思います。その時はぼくにとって一番近い国になっていると思いました。

最後に団長をはじめ付き添いの方々に深くお礼を申しあげます。この体験が自分に役立ち本当にありがとうございました。

初めての海外、中国に行って

高松市立紫雲中学校
村　田　順　平

ぼくは、今回中国を訪問して、様々なことを日本と比較してきました。そして、これから世界をどのように見ていこうか決心がつきました。

まず、中国に行き、最初に思ったことは日本と空気が違うことです。中国の空気は、なんか息苦しくなる感じで、たぶん人口が多い分空気中の二酸化炭素の量が増えたからこうなったのだと思います。

道路上では、自転車より自動車優先で横断歩道もほとんどなくて、人が多い道は自動車も時速10km～15km程度の速度しかだせてないことも新しく発見しました。

上海で見学した東方明珠塔では、上海の夜景が見わたせてとても美しかったです。そして、アジア一の大きさで、しかも東京タワーよりもがんじょうな造りになっていることにとてもびっくりしました。パンダも一日の大半を寝ているという条件の中で、１回だけ写真におさめられて、とてもうれしかったです。

南昌市では、待望のホームステイができ、佑伦(ヨンロウ)君達の家族ととても仲良くできました。相手は、中国語と英語で話をどんどん進めてくるので、辞書を片手に単語の意味を読みとってがんばったけれど、ほとんどが分からなくて大変でした。それでも、ジェスチャーでなんとか言いたいことを表し、少しでも理解してもらおうとがんばりました。そしてこのホームステイで、英語の大切さを思い知らされました。

北京では、長さ6,250kmもある万里の長城を登り、モンゴルとの国境を見たりしながら、水を片手に登りました。階段の角度はとても急だけど段の高さはそろえていることにすごくびっくりして、改めて中国文明のすごさが分かり、とても感心させられました。

故宮でも、明、清の時代の皇帝が結婚式やいろいろな儀式をしたり法律を定めるところや、皇帝を次の代の皇帝に交代するところがあり、その敷地の広さからその当時の皇帝の権力のすごさが分かりました。

料理も、上海の中華料理は辛くて油っこくてあまり食べられなくて胃腸薬を飲むほどだったけれど、南昌へ行くと日本人にあうように味をうすくしてくれて、いくらでもおなかの中に入り、とてもおいしかったです。北京では、もとがうす味なのでおいしく、最後の夜食べた北京ダックはとてもおいしくて、本場の中華料理を十分堪能できたと思います。

今回の中国訪問で、中国の様子や日本と比べてどれだけ日本が豊かなのかということや、中国市民のふつうの生活の様子などがホームステイや現地見学を通して分かりました。

そして、これからは、世界に広く目を向けて日本がどれだけ豊かで快適な生活をしているかということを心に刻み、自分達の将来を深く考えるようになりました。

八一起義記念館の前で

俺の中国旅行

高松市立玉藻中学校
藤　本　大　佑

僕は、第９回中学生訪中親善使節団に選ばれてたいへんうれしく思う。ふだんの学校生活では、味わえないような生活をさせてもらった。また、すぐ隣にある中華人民共和国の食文化、歴史的な建物、万里の長城などを見せてもらった。しかし、まだ１つふだん見れない物を見せてもらった。それは、貧富の差だ。あれは、上海の玉仏寺周辺での事である。僕たちは、玉仏寺の中を見学するためにバスを道路わきに止め、約500ｍほど先にある玉仏寺の入り口に向かった。その時に何人見ただろうか、20人はいただろう。やぶれた服を着ている人や、片方の足がない人たちなどがタッパーウェアなどの容器を持って上下に容器をふりチャラチャラと音をたてながらなにか中国語を言って手をあわせている。金をくれといっているのだろう。僕はハッと祖母の話を思い出した。祖母も昔、中国へ行き僕と同じような経験をしたのだ。祖母は、小さい子に石を買ってくれと泣きながらたのまれたのだ。でも１人の子だけに買ってやると売っている子全員の売り物を買わなければならないので、泣きながら頼んでいる子を無視し耳をふさいで通りすぎたのだ。僕も同じようなことをされた。おじいさんやおばあさんが寄ってきてなにか頼んでいる。僕は、とてもこわくなりさっさとにげてしまい玉仏寺の見学をすませて、一目散にバスにかけこんだ。そして、バスの中が暗かったのでカーテンをあけると、なんとおじいさんがバスに寄ってきてコップを上下にゆらしてチャラチャラと音をたてて、にっこり笑っている。もう、僕は涙が出そうだった。３日目の夜に、ホームステイに行った。ホームステイ先の家は、とても立派だった。自分の家より立派だったかもしれない。また、食事もすばらしかった。でも、僕はなにか心の底で、バスに寄ってきたおじいさんの顔が忘れられなかった。この中国訪問で自分が日本人に生まれてよかったと思うとともに、なにか自分自身の心の持ち方が少し成長したように思えた。たぶん、この心の持ち方によって今、問題になっている人種差別やいじめなどがなくなるのではないかと思う。あと、この中国訪問では、友達全員に助けられたと思う。心の底から礼を言う。

「謝謝」

ホストファミリーと

すてきな出会いをありがとう

高松市立玉藻中学校
林　　舞　紗

かねてからの希望だった訪中使節団の一員に選ばれたという幸運を得た時、私は期待と喜びでいっぱいでした。それなのに、正直なところ出発の朝は、二つの不安のために決して浮かれた気分ではありませんでした。不安の一つは事前研修を通じて班の人達とは仲良くなっているはずだったのに…。はっきり言ってまとまりのいい班とは言えなかったからです。よくよく考えた末、自分から積極的に行動するしかないと決めました。すると、まもなく一つ目の不安は取り除かれました。そして、二つ目の不安、飛行機…。私の記憶の中では初めての経験なので、飛び立つ前はなんとか平静を保とうと必死でした。ともかく、無事上海に降り立ち、初めてリラックスすることが出来ましたが、当然のことながら、耳にするのは、中国語ばかり。ついに中国に来たんだと感激しました。

あこがれの街上海は、期待通りのエネルギッシュな躍動感あふれる街でした。東方明珠テレビ塔は特別綺麗で、中華料理もとてもおいしく、ご機嫌な１日目でした。

翌日は楽しみにしていたパンダさんは熟睡中でがっかりしたけれど、それ以上に玉仏寺での哀しい光景を忘れることができません。日本では経験したことがない私達は、バスに戻るのがイヤで泣きそうになったほどでした。日本とは違い、福祉政策の遅れなのでしょうか。中国の現実を目にして、重く、切ない思い出となりました。

次に訪れた南昌は上海とは全く違って、落ち着いた歴史を感じさせる緑豊かな古都でした。いよいよホームステイ、しかもたった一人で。訪問当日は幸か不幸か日本語の出来る人が来てくれていました。ところが、翌朝はほんの１時間程が何時間にも感じられたのです。それは、あまり英語が通じなかったからでした。でも、餃子が好きと言うと、どんどんご馳走を並べてくれて、心からの暖かいもてなしにとても感謝しています。中国伝統のお土産もたくさん持たせて下さいました。

久しぶりに？団員と会って、とてもうれしかったのは、一人でやはり心細かったからでしょう。この日は思いきり買物を楽しみました。値下げ交渉はなかなかおもしろく、3人でおそろいのチャイナ服を買いました。かわいくて、今でもお気に入りです。

５日目の北京はスケールの大きさ、歴史の深さを痛感させてくれました。神秘的で雄大な風景は心の中にしみわたっていきました。

私がこの旅で得た物は数え切れないと思います。もちろん、中国に関する感動もありますが、その他にとても大切なものを得ました。それは、出会いです。団長や海見さん、松良さん、陳さんやガイドのみなさん。中国のホストファミリー、そしてすごく仲良くなれた団員のみんな。私はこんなに多くの人達と出会い、大好きになりました。本当に団員としてこの訪中使節団に参加できてよかったと思います。そして、貴重な経験を今後に生かしていきたいと思います。謝謝。

八大山人記念館で

中国から得たもの

高松市立屋島中学校
畠山　真代

初めての海外旅行、初めての飛行機に、とても楽しみにしていました。出発するまでは、中国へ行くのがまちどおしくて、毎日スーツケースを開けたり閉めたりしました。とは言っても、言葉も地理もわからない所に行くのには、大きな不安もありました。そして、とうとう、私の期待と不安を乗せて、関西空港から上海に向けて、飛んだ。飛行機が空に浮いた時、私のおしりも、「ふわっ」と浮いた感じがした。そして上海空港におり立って私の使節団としての旅の始まりでした。

かわいかったパンダ、やたらに広い故宮、想像を絶した雄大さの万里の長城、どれもこれも印象深く、今でも私は、はっきりと覚えています。中でも、万里の長城の雄大さには本当に感動しました。それとともに、「ここは大陸なんだ」と改めて、感じました。そして、敵から身を守るために、一つの国を壁でかこってしまう中国の人の発想に驚きました。

中国で過ごした６日間の中でも３日目にあったホームステイはとてもいい思い出になりました。いっしょに遊んだ時間は４時間ぐらいあったのですが、話したことは、ほんの少しです。なにも話さなかったのではなく、お互いに伝わるのに時間がかかったからです。言葉が通じなくても、身ぶり、手ぶりで通じるんだという事を体で実感しました。でもやはり、言葉というものは大切で、分からないより、分かった方がいいと思いました。中国では、小学生の頃から英語を教わっているとききました。好ちゃんをみていても分かりましたが、中国という国は子供の時から子供を国際人として育てているように思えました。

お土産などを買う時に、値切るのには驚きました。例えばキーホルダーが１つ３元ぐらいだったら、「えーっ、これってさっきの店では、２元だったのに～い！」なんて言って値切ったら本当に安くなったりしました。こんな買い物の仕方があったなんて、とても楽しい買物ができました。

また広場で太極拳やダンスを集団でしていても１人でしていても、そこを通る人々の注目を集めるようなことはなく、そしてまた、買い物や遊び１つにしても人と人との対話のある生活、それが私の見た中国文化のステキな所だと思いました。この使節団の経験を生かし、これからの将来に向けて、国際社会の中で活躍できるようになりたいと思います。

行く前は長い６日間だと思っていましたが、帰って来たら楽しすぎて、あっという間の６日間でした。これも、交流協会の方々や、団員の楽しい仲間たちのおかげだと思います。この機会を与えて下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。「謝謝」

万里の長城で

初めて肌で感じた中国

高松市立龍雲中学校
土　居　美早紀

「すごーい!でっかーい!」初めて万里の長城を見たとき、その高さと長さに圧倒されました。段差で何度か転びそうになったり、少し登っただけなのに、息が切れて胸がドキドキしました。振りかえると、さっきまで私の乗っていたバスが豆粒のように小さく見えます。先に登っていた友達に、やっとのことで追いつき、記念写真を撮りました。それまで教科書でしか見たことのなかった万里の長城に、今、私は立っている!その感動と緊張で足がガクガク震えていました。

８月20日から25日までの６日間、私は、第９回中学生訪中親善使節団員として、上海、南昌、北京を訪れました。中でも一番印象に残ったのが、この万里の長城でした。興奮の余り、その日の夜は、なかなか寝つくことができませんでした。

もう一つ、私の心に深く残ったのは南昌市でのホームステイです。22日の夕方、歓迎夕食会が終わった友好会館にホストファミリーの４人の方が迎えに来て下さいました。私と同じ中学生はすごく背の高い女の子です。家まで移動する車の中で、“What grade are you in？”とか“Can you speak Chinese？”など英語でいろいろ質問されました。発音もすごく上手で、なんだか自分が恥ずかしくなりました。

家に着くと、家族だけでなく、いとこの人やその両親など７人もの人で温かく迎えて下さいました。お父さんは警察官で、お母さんは学校の先生をしています。その12歳の赵煜はモデルをしていて、写真集を見せてくれたときはびっくりしました。きれいな写真がたくさんあって、すてきだなあと思いました。一家は本当に気を遣って、優しくして下さいました。中国の珍しい果物やメロンを出して下さったり、夜食にはスナック、ソーセージ、それにお父さんの作ったおやつにホットミルクを用意して下さいました。寝る前にはみんなで「とんでぶーりん」と書いてあるパズルをしました。中国でひらがなやカタカナを見かけたのが意外でちょっと驚きました。かつて日本は中国から文化を取り入れてきましたが、日本から中国に伝わっているものもあるんだなあと国際交流というものを改めて感じました。中国でもセーラームーンやドラえもんは有名です。街では宇多田ヒカルのポスターも見かけました。

北京へ向かう時が来ました。ホストファミリーともお別れです。赵煜とお母さんとで友好会館まで見送りに来てくれました。握手をして、空港に向かうバスが動き出してからも、何度も何度も「再見!」と言いながら手を振りました。たった一日の「家族」でしたが、とても心に残る出会いでした。

私はこの使節団に選ばれて本当に良かったと思います。肌で感じた中国、大陸の風、文化の香り、そして人の温かさ…。中国は初めての場所なのに、なぜかなつかしいような感じがしました。世界中の人々が平和で幸せに暮らせるように、はやくそうなればいいのに、なぜできないのだろうか。私にできることは何なのだろう。私がしなければいけないことは何なのだろう。この６日間で少し大人になった気がします。

あわただしく２学期が始まり、私はクラスの級長になりました。班長を務めたこと、ここで学んだことを生かしていく第一歩です。私を成長させてくれた中国。機会があれば、是非また訪れたいと思います。もっと大きくなった私になって。

最後に、氏部団長さん始め、海見さん、松良さん、通訳の陳さん、お世話をして下さった国際交流協会の方々、団員の皆さん、中国で出会った全ての人たちに深く感謝いたします。ありがとうございました。「謝謝」

ホームステイ先の家族と

中国での６日間

高松市立下笠居中学校
中　村　衣　里

私の、この中国での６日間は本当に心の宝物です。実際に私の目で見て、私の肌で感じ、学んだ１日１日が、私にとって忘れられないすごく貴重な体験となりました。

中国への第一歩として空港から出た瞬間、想像はあったものの、それをはるかに超えるものすごい数の人、車、自転車に、私は何を言っていいのか分からないほど、びっくりしました。それと同時に街にあふれる活気や、日本とはまた違う中国の空気に、体中があつくなってくるほど感動しました。

上海、南昌、北京と、それから６日間私は、中国の文化や歴史を自分で感じ、吸収し、充実した毎日を送りました。中国の建物を見学した中で特に印象深かったのは、やはり何といっても万里の長城です。私の目に映りきらないほどの広大さ、規模の大きさに圧倒されっぱなしでした。やはり中国の深く雄大な歴史、文化を身にしみて感じました。

しかし、そんな反面、つらい場面も目にしました。それは、片手、片足のない人、おじいさん、小さな子供が、私達に「お金を下さい」と近づいて来る所です。私は、こんな光景を目にしたのは初めてで、貧富の差に、胸がおしつぶされるような思いをしました。つらい思い出となったけど、日本の豊かさに気づかされました。

それから短い時間だったけど、人の優しさを改めて感じたホームステイは、とても大切な思い出となりました。本当に今でもはっきりと覚えています。あのきらきらした笑顔。あの温かさ。あの楽しい時間を。英語は通じるだろうか、だいじょうぶだろうかと、不安だった私を安心させてくれたのは、やっぱり家族の人の優しさ、親切さです。何を言っているのか分からなかったり、英語が通じにくかったりと、言葉の違いがさみしくなったりもしました。自分の英語がもっと上手だったらよかったと悲しくなったりもしました。でも、本当はお互いの思いによって心は通じ合うものなのです。だから、言葉はちがっても思いによって心が温かくなったんだと思います。紙ふうせんをしたり、パズルをしたりと、あっという間に楽しい時間は過ぎてしまい、お別れの時は、何度も何度も手をにぎり、手紙を書く約束をして別れました。心に刻みこまれた家族のことは、私の心の宝物の１つとして残しておこうと思います。

こうして私は、最高の思い出を手にすることができました。私がふれたのは中国のほんの一部だけど、これを生かして中国の文化や歴史についてもっともっと学び、感じていきたいです。また、私はこの中国訪問のことを絶対忘れません。そして、今回出会えたみんなのことも忘れません。本当に、私にとって宝物の貴重な６日間をこれからも大切にし、いろんな場面で生かしていきたいと思います。

上海博物館で

国境を越えた中学生の友情の輪

高松市立太田中学校
長　野　佑　希

中国。とても興味のあった国でした。まさかそこに行けるなんて…。まして、中学生訪中親善使節団として、市の代表として行くなんて。

正直言って、「不安」という気持ちなんて少しもありませんでした。文化や建物、交通に食べ物、どんなものなんだろう。そればかり考えながら、支度をしていました。

私が一番楽しみにしていたこと―そして一番の思い出となった万里の長城とホームステイ。それらは、日本とはまた別の、中国独特のものでした。

まず、歴史上でも非常に有名な万里の長城。写真でしか見たことがなかったが、現に見たものだから、自分でも少しおどろきました。

「秦の始皇帝が造らせたという万里の長城。今こうして登っているんだなあ。」

と、何度も声にだして言いました。感激のあまり涙がでてきそうでした。

上も下も見渡す限りの階段に、大きなため息が一つ見えました。登るだけでも疲れてきている上に、またそれを降りなければなりません。足がガクガクしていて、歩くのがイヤになりました。でも、達成感でした。

次はホームステイ。他の班の人たちは二人ずつペアになっているのに、私は一人でした。ここでようやく、あせりというものが見えてきました。家の様子や家族、英語のことなどたくさん教えてもらおうと思ったのですが、本当に相手に伝わるのか、だんだんと心細くなっていきました。

実際、いろいろなことを話しました。中国、日本のことや日本のＣＤ、マンガ。日本語も教えてあげました。簡単な「ありがとう」や「さようなら」でも、向こうの人にとっては難しいようでした。あまり上手ではない発音を気にしながら、必死で覚えようとしていました。

「海内存知己」と「天涯若比鄰」は、プレゼントとして、ホームステイ先の友人からいただきました。離れていても友達だよ、そういう意味で、中国では人気のある言葉だそうです。

今回の訪中ではたくさんのことを学ばせていただきました。国外の友達、中国、そして身近な友達のこと。どれもこれから役に立つものばかりです。一つ一つ、しっかりと役立てたいです。

最後になりましたが、本当にお世話になりました。そして行かせてくれたお父さんお母さん、ありがとうございました。

皆様に、謝謝。

万里の長城にて

「 你 好 中 国 」

高松市立木太中学校
井　上　智　史

ついに僕の夢であった中国に行ってきました。この旅行をするにあたり、僕なりに三つのことを考えていました。まず以前から中国の人と会って会話を交してみたいと思っていたことです。「你好」これは僕が最初に覚えた中国語です。この言葉は中国で何度も使う機会がありました。ただ僕は中国語が分からずとてもくやしい思いをしました。買い物をする時は、がんばって知っている限りの言葉を使い、値段を安くしてもらいました。言葉は国を知る大切な入口だと強く感じています。

次に中国の歴史を知ることです。秦の始皇帝が作った万里の長城は人の手で作られた、唯一人工衛星に写る建物で、そして全長は約6,700km（北海道～九州間の約2.5倍）もあり僕は一部を見ることができてその知恵とかにおどろかされました。明の時代に15年をかけて建てられた「故宮」では、整然とならんだ巨大な宮殿の美しさに僕は感動しました。中国の歴史的な建物や自然は今までに見たことのないスケールを感じました。

もう一つは中国の人との心の交流をはかることです。ホームステイでは、お父さんと、僕と同じ年位の男の子が迎えに来てくれ、家にはお母さんと日本語がわかる方が温かく迎えてくれました。日本語が分かる人がいて僕はほっとしました。夜行列車での睡眠不足で早く寝てしまい、十分に楽しめなかったのは大変残念でしたが、諶さんの家族と過ごしたこの夜は僕にとって忘れられない楽しい思い出となりました。中杰君と、お互いの学校のことや家での遊びについて話したことなど今も思い出されます。中国では今、卓球、バスケットボール、サッカーがはやっているそうです。僕の家には時々外国の人がホームステイにやって来ますが、いつも迎える側です。今回初めてホームステイを経験してホームステイをする人の期待と不安の入りまじったような気持ちを理解することができたような気がします。よその国に行き、知らない人から受ける親切の有難さがわかりました。今回の旅行に最初から、最後まで同行してくれた陳さん。陳さんは特別お世話になりました。陳さんは僕達にとても優しくいろいろなことを教えてくれました。おかげで今回の旅行は楽しく無事にすごすことができました。僕はぜひ陳さんに手紙を書こうと思います。

僕はこの六日間、期待と緊張の連続でした。だが、言葉に言い表わせないほどの感動をしたり、貴重な経験が出来ました。これからは同じアジアの隣の国の人のことをもっと知り、分かり合えるようになりたいと思います。21世紀にはもっと簡単に行き来できればいいと思いました。最後になりましたがこの旅行のお世話をしてくださった高松市国際交流協会の方々や氏部団長、海見さん、松良さんと11人のメンバーに感謝します。

「実在感謝不尽、再見」

豫園で

Experience in China

高松市立木太中学校
立　花　良　浩

私は、訪中使節団の一員として、中華人民共和国に派遣されたことをとてもうれしく思っています。自分の目で見る中国は、とても雄大で日本とは全く違っていました。また似ていると思っていた文化の違いや交通事情にも驚かされました。日本も中国もはしを使って食事をします。しかし中国のはしは、重く太く長いはしだったのでこんなに近い国でも、意外に差があるものだと、文化の違いを感じました。

この訪中で一番心に残っているのは、行く前から楽しみにしていた南昌市でのホームステイです。私は章さんという家族にお世話になりました。家に着き、どきどきしながら、私が覚えたての中国語で「我叫立花良浩」と言うと、私と同じ年の章君はていねいに家族を紹介してくれました。中国語がほとんどできない私に章君は英語でも話をしてくれました。私は英語でお互いの気持ちを伝えあおうとしました。この時、私はもっと英語を勉強しなければならないと強く感じました。言葉の壁はありましたが、日本の昔の遊びを教えてあげたら章君の弟が夢中になって遊び、私はうれしくなりました。単純な遊びは、言葉の壁をなくしてくれたようでした。また、私達は、お互いに、日本語と中国語を教えあいました。自分で勉強するのと違い、とても楽しく何度も教えてもらいました。そして、日本語、中国語、英語のちゃんぽんで夜遅くまで話をしていました。

次の朝、日本語の「おはよう」にあたる言葉を言うと「ニーザオ」が皆から返ってきました。あいさつが返ってくるとホッとしました。朝食はあまり油っこくなかったのでとてもおいしく、食べられました。多分、日本人の私向けの味付けにしてくれたのだと思います。

私の泊まった章君の家庭はパソコンがあったり、部屋があったりと裕福でした。けれど、いちど街に出ると、日本にいる時には、想像もつかなかった貧しさも目にしました。中国では貧富の差が激しいことを実感したのです。

別れの時、章君は日本語で「さようなら」と言ってくれました。ほんの一時しか一緒に過ごせませんでしたが、私にとって、初めての外国での体験、違う文化を持つ人との交流は、今でも心温まる思い出です。世界には、もっといろいろな生活をし、いろいろな考え方の人がいるはずです。私達はその人達と共に生きていかなければならないのです。私はこの国際交流で学んだことをこれからの生活に生かし、多くの人達の意見を聞き、自分の考えを広げて行きたいと思っています。そうすることが、本当の国際的視野を身につけることだと思うのです。

日中の友好関係がさらに深まり永遠に続いてほしいと思っています。「謝謝」

ホストファミリーと

視野を広げる

香川大学教育学部
附属高松中学校
須　田　倫　実

日本だけでなく、外国も見て、視野を広げたいという気持ちを胸に抱き私は中国へ行きました。案の定、中国では日本ではとても体験できない事を感じる事ができました。たくさんの体験の内の３つを紹介します。

まず１つ。一生に１度体験出来るか出来ないかの『ホームステイ』です。

ホームステイ先の家には、私と「畠山真代」さんという新しくできた友達と２人で行ける事になったが、緊張しました。ホームステイ先は、「祝好」さんの家でした。家に向かうタクシーの中では２人で必死に知っている英語を話してみました。が、通じたのは「Nice to meet you」（初めまして）ぐらいで先が不安になりました。でも意外となんとかなるものです。無理に英語を使わなくても、絵や漢字、また動作や表情などで、なんとなく伝わりました。みんなで買い物に行ったりトランプでババ抜きをしたり、五目ならべやダイヤゲームを教えてもらったり、紙風船やパズル、折り紙などでも遊んで、もう楽しいの一言でした。一晩だけだったけれど、すごく楽しませてくれて、祝さんにとても感謝します。謝謝。

２つ目の体験は、やっぱり買い物。

日本では、なかなか出来ない値切りの魅力に私はハマってしまいました。初めての買い物は上海で怖かったのを覚えています。店の人がどこまでもしつこくついてくるからです。しかし２度目からは、みんな値切れるようになりました。80元を40元にしたり、50元を20元にしたり。でも１番おどろいたのは、万里の長城での値切りです。10元を１元にする事も出来ました。

３つ目の体験は大きな建築物を歩くという事です。

上海のテレビ塔や北京の故宮などがありました。その中でも、もっとも感動したのが、故宮と同じく北京にある「万里の長城」です。万里の長城とは、中国の王朝名が秦だったころ、始皇帝が作らせた物で、長さはおよそ24,000㎞もあります。こんなに古くからの歴史のある万里の長城を私達は少しだけど、歩くことができました。そんな昔の物とは思えないほど、長く、高く、がっしりとしたものでした。中国の歴史について、改めて考える事のできる場所でした。

こんな風に、私は中国に行き、日本には無い物を見たり、日本ではできない事を体験したりで、この６日間が夏休みで１番の思い出になりました。そして視野もしっかり広げる事が出来ました。

こんな貴重な体験をさせてくれたみなさんに、心から感謝します。ありがとうございました。

ホストファミリーと